

第4回広島県総合計画審議会議事録

- 1 日 時 令和2年7月27日（月）午後3時から午後5時まで
- 2 場 所 広島市中区基町10番52号
広島県庁北館2階 第1会議室
- 3 出席委員 苅田会長，明岳委員，伊藤（伸）委員，上野委員，衣笠委員，
國生委員，児玉委員，牛来委員，坂本委員，重藤委員，
内藤委員，長尾委員，七木田委員，久光委員，日高委員，
フंक委員，本多委員，前田委員，松村委員
- 4 議 事 新たな総合計画（ビジョン）素案について
- 5 担当部署 広島県総務局経営企画チーム地方創生担当
電話：（082）513-2396（ダイヤルイン）

6 会議の内容（議事要旨）

【会長代理指名】

苅田会長が松村委員を会長代理に指名

（委員）

- 素案は，県民の幸せを軸に展開されており，全体の方向性について共感する。コロナ禍を踏まえたポイントを3点述べるが，県民の命と健康，雇用と生活を守るためにも，ピンチをチャンスに変える県のリーダーシップに期待している。
- 感染対策と経済対策両面の取組が必要な状況であり，検査医療体制の拡充で安心感を高めること，併せてサプライチェーン全体での付加価値の適正配分等による企業の経営基盤強化とデジタル人材を含めた人材育成により経済格差を乗り越えることが大事である。
- 新しい柱である地域共生社会は，人と人とのつながりが困難な状況で，改めて地域での支え合い・助け合いを基盤にした包摂的な社会の必要性が再認識させられた。
- 防災を含め，従来の課題の克服等に向けて，産官学金労言の連携した取組がより一層求められている。

（委員）

- 今回の総合計画のポイントは，目指すべき姿の実現に向けた基本的な考え方に記載されているが，「安心・誇り・挑戦」と「地域づくり」との関係性はどうか。

(事務局)

- 安心・誇り・挑戦は、個人のライフスタイルに着目している。地域との関わりをみると、都市部、中山間地域など暮らす地域によって、安心・誇り・挑戦の内容などは異なってくるため、それぞれの地域特性に合わせた取組を進めることでそれぞれの挑戦にかなげたいと考えている。

(委員)

- 安心・誇り・挑戦について、安心や誇りを土台、また原動力として挑戦していく、あるいは挑戦が安心や誇りにつながるといった好循環を生み出すとあるが、その考え方について改めて説明していただきたい。

(事務局)

- 17 頁は例示を示しつつ誇りを高める考え方を示している。18 頁では高めた誇りにより挑戦への一歩を踏み出してもらうことで、さらなる安心や誇りにつながる好循環を生み出すものと考えている。

(委員)

- カタカナ語表記など、骨子の段階より分かりやすくなった。
- 個人的見解であるが、安心▷誇り▷挑戦の「▷」印は、安心だけで満足な者にとっては、誇りや挑戦を義務付けられているかのような印象を与えるかもしれない。

(事務局)

- 安心を土台として、県の強みを再認識してもらうことで誇りを高め、挑戦してもらう社会への思いを込めたもの。

(委員)

- 文化や平和の領域について、県と広島市がどう連携しようとしているのか。

(事務局)

- すべての施策において、県市で役割分担していく。

(委員)

- デジタル化の推進を謳われているが、県庁のデジタル化の推進が急務である。

(事務局)

- 県全域での高度化を検討している。デジタルガバメントに向けての取組も進める。

(委員)

- DXは良いことばかりではない。デメリットの側面も踏まえて議論していくことが必要となる。

(委員)

- 「適密適散」との表現は、洗練されすぎていて、言いたいことが県民にうまく伝わるか心配。

(委員)

- うまく表現していると思うが、もう少し解説がいるのかもしれない。

(委員)

- 施策を貫く3つの視点として、DX、ブランド、人材育成という順番で並んでいるのはなぜか。

(事務局)

- まずは否応なく訪れるデジタル化への先駆的な対応、次に誇りにつながる広島らしさを意識した施策の推進、そしてすべての施策を推進する上で源泉となる人材育成を視点としている。

(委員)

- 人が一番大切との説明を聞いて安心した。ビジョン全体を通して、人が一番という姿勢にブレがないようにしてほしい。

(委員)

- 『持続可能なまちづくり』という施策領域があるが、「持続可能」という言葉は、他の16領域全体にも当てはまる言葉ではないか。

(事務局)

- 特にまちづくりに関しては、長期間にわたるインフラ維持などの取組が多いため、特に中長期的な視点を持つという意味で「持続可能な」と付けている。

(委員)

- 27ページのひろしまブランドのページにSDGsの記載があるが、SDGsの特定の取組を広島県がブランド向上策として実施していくという意味なのか。

(事務局)

- SDGs は日本全体、行政全般の取組であり、本県でもすべての施策に該当するものと考えている。特に『平和』における核廃絶、『環境』における瀬戸内海の環境保全などは広島らしさを出せる分野でもあり、注力して取り組んでいく。

(委員)

- 新型コロナは現在起きている危機であるにも関わらず、11 頁の図では、将来的な見せ方となっている。今生きている人間の世界観、人生観に影響を与えるものであり、現状から 10 年以内の危機というとらえ方ができるようにするべきである。
- 『医療・介護』に新型コロナの記述があるが、「発生時における体制の強化」となっており、直面している危機感が足りない。行政と大学、医師会が連携した官学民の地域医療体制が広島県の強みでもあるので、考慮すべき課題のところにしっかり記載して欲しい。

(委員)

- 『農林水産業』の 30 年後の姿として企業経営を掲げているが、中山間地や急傾斜地が多いというハンデを持つ広島県にとって、これが果たして可能なのか不安に思う。
- 10 年後の目指す姿に記載があるように、兼業農家や半農半 X などの多様な農業者も位置付けていかなければ、県全土の農地・耕地をカバーできないし、農業の多面的機能が弱まることとなる。
- 農業生産額には畜産の金額は含まれていないと思うが、耕畜連携という循環型農業の視点も重要なので、指標は畜産額も含めたものにしてはどうか。

(事務局)

- 競争力の高い農業へのシフトにより、若い人が農業に参画できる仕組みを作り、農業全体をしっかり守っていききたい。

(委員)

- 『地域共生社会』の目指す姿に、外国人が位置付けられたことは大きな前進。「外国人が地域社会の一員」であることまで記載できればなおさら良い。現在の記載では、「違いを認める」となっているが、もっと積極的に「多様性を活用する」のような表現に変更できれば良い。
- また、考慮すべき課題で「転職などが可能となる新たな在留資格制度の導入促進などによる外国人の増加が見込まれるなど」となっており「など」が多用されて読みづらい。

(事務局)

- 外国人については、『多様な主体の活躍』でも位置付けており、地域の人とつながり「孤立することなく安心して生活し働くことができる」ことを目指す姿に設定している。

(委員)

- 『観光』は、新型コロナの打撃を受けているが、多くの「非正規労働者」が働く分野でもあり、その対応も課題に位置付けてもいいのではないか。

(委員)

- 『観光』の目標値（観光客数や観光消費額）、『交流・連携基盤』の目標値（広島空港の利用者数）について、現下の状況は、新型コロナの影響で大きく落ち込んでいるが、どのように設定したのか。

(事務局)

- 観光については、コロナの影響を踏まえて、検討当初より下方修正した。空港利用者数などは、国際航空機関の予測（1年後に国内旅客が回復し、3年後に国際旅客が回復）を参考にして設定した。

(委員)

- ビジョン指標が1つのみの領域もあるが、これだけで進捗が測れるのか。

(事務局)

- ビジョンの実効性を確保するため、ビジョンとは別に5年間のアクション・プランを策定し、KPIを設定して取組の進捗を測ることとしている。

(委員)

- 県民とともに実現していくビジョンであり、10年後の姿がどのようなものか、また県民一人ひとりが具体的に何をすべきかがイメージできるように、広報に当たっては、計画素案の内容をうまく凝縮し、イラストやキャッチフレーズも使って発信してほしい。

(委員)

- 目指す姿が網羅的になっており、内容が重複しているものもある。文章量を思い切って半分にすれば、コアな部分が見えてくるのではないか。
- 『教育』で「デジタルリテラシーを身に付けること」が目指す姿になっているが、10年後にこれだけでよいのか。デジタルリテラシーは手段であり、金融の知識やプレゼンできる能力の方がより重要と思う。教育は生き抜く力、稼ぐ力をつける場にしていくべきである。

(委員)

- 「安心・誇り・挑戦」や「欲張りライフ」など、言葉が色々ありすぎて少し分かりづらい。

(事務局)

- 県民の皆様に端的に理解していただけるよう広報で工夫していきたい。

(委員)

- 『環境』の目指す姿に自然公園施設の利用があるが、取組の方向では「魅力を高める」しか書かれていない。コロナ禍の新しい生活様式の中で、どのようにして県民に、安全で快適なサービスを提供していくのか。

(事務局)

- コロナの影響を受けて「適度で快適な空間」が求められている。自然公園は、心が和らぐ憩いの場であり、こうした魅力を更に高めていきたい。

(委員)

- 『地域共生社会』が新たな施策領域に位置付けられたことは喜ばしい。ただ、取組の方向①（住民と多様な主体の連携・協働による課題の解決）の「また、～（以降）」は、断らない相談支援の確立と専門職や住民とが連携した課題の解消を言っていると思われるが、言葉が難解で分かりづらい。

(事務局)

- 地域福祉支援計画を基に記載しているが、指摘を踏まえて記述を整理したい。

(委員)

- 『地域共生社会』取組の方向①について、地域での担い手の確保・育成が重要である。
- 『多様な主体の活躍』取組の方向③（若年者等の県内就職・定着促進）に関し、若者の早期離職も大きな課題として挙げられる。
- 『産業イノベーション』取組の方向⑦（中小企業・小規模企業の生産性向上・経営改善）などでは、働く価値に見合った対価の支払いを機運として盛り上げていくことも必要である。

(委員)

- 中山間地域では、若者の流出に歯止めが掛かっておらず、若者が減っていることにもっと危機感を持って書いてもいいのではないかと。
- 『農林水産業』では「スマート農業」は必要と考えるが、それを進めていく上で、中山間地域でスマート農業を理解している人が少ない状況にあり、大きな課題である。

(荏田会長)

- 答申に当たり、審議の取りまとめを行う。すべての意見を反映することは難しいが、

表現の問題や根本的な問題など、修正すべきものは事務局と調整して整理を行った上で、知事に答申を行う。

- 場合によっては、関係委員と個別に相談・調整することもあるかもしれないが、意見の集約ととりまとめは、私に一任いただくことでよい。

(各委員)

- (異議なし)

7 会議の資料名一覧

資 料	新たな総合計画（ビジョン）計画素案
机上配布資料	これまでの総合計画審議会における主な意見と対応状況
参考資料 1	第 3 回広島県総合計画審議会の主な意見
参考資料 2	これまでの審議状況と今後のスケジュール